

茨城県Sリーグ運営ルール

茨城県卓球連盟は、ラージボール卓球愛好者の友好と親善を図りながら個々の技術を向上させ、Specialist を目指すことおよび健康寿命延伸に繋がる活動に高めることを目的にオープン参加の茨城県Sリーグを開催する。

茨城県Sリーグは、以下のルールにより運営する。

《競技ルール》

第1条

1. 本大会は、2025年11月1日改定のラージボール卓球ルールを適用する。
ただし、競技用服装に関する第17条5項及び7項は、適用を除外します。
2. 表ソフトラバー(粒高・一枚ラバーを除く)のみが使用できる。またラケットの使用しない面は、使用が禁止されているラバーを貼ることは出来ない。
3. ラケット裏面に重さ調整のためにラバーを貼る場合は、正規のラバーを全面に貼ること。

《クラスの基準》

第2条

1. 直前の結果に基づき以下のクラスに分類する。
 - ・ 3S部：3S残留者(上位4名)および2S部からの昇格者
 - ・ 2S部：3S部降格者、2S部残留者およびS部の昇格者(グループ上位1位者)
 - ・ S部：2S部降格者、S部残留者および1部からの昇格者(グループ上位1位者)
 - ・ 1部：S部降格者、1部残留者および2部からの昇格者(グループ上位1位者)
 - ・ 2部：1部降格者、2部残留者および3部からの昇格者(グループ上位2位迄)
 - ・ 3部：2部降格者、3部残留者および4部からの昇格者(グループ上位2位迄)
 - ・ 4部：3部降格者、4部残留者および5部からの昇格者(グループ上位2位迄)
 - ・ 5部：4部降格者、5部残留者および6部からの昇格者(グループ上位2位迄)
 - ・ 6部：5部降格者、6部残留者および7部からの昇格者(グループ上位2位迄)
 - ・ 7部：6部降格者、7部残留者および8部からの昇格者(グループ上位2位迄)
 - ・ 8部：7部降格者、8部残留者、初級者
2. 初参加者(組)は、全日本ラージボール卓球選手権大会、全国ラージボール卓球大会、関東ラージボール卓球大会等のランキング経験者を除き2部を上限とする。
3. 招待選手、国体、マスターズ経験者等の実績者は、主催者の判断によりクラスを決定する。
4. 主催者がSリーグ大会のランキングを決定する場合は、前大会成績を最優先する。
ただし、参加申込は、①ダブルスのパートナーが変更になった場合、②久々に参加した場合、③初参加の場合、④同一ランクに大勢の不参加者が出了した場合などの複雑なケースがある。これらの複雑な場合の判断基準は、過去の実績等を勘案し、Sリーグ運営委員でクラスを決定する。
5. 定員超過に伴い参加できなかった選手は、前大会のクラスを継続する。

《種目》

第3条

種目は、以下の2種目とする。

1. 男女混成のシングルス
2. 混合ダブルス(女子ダブルスの参加を認める。)

《グループ分けの数》

第4条

1. グループの人数(組数)は、原則として4人(4組)～8人(8組)の範囲とする。
2. グループ数は、各クラスの参加人数により試合進行上適当な人数となるように決定する。

《昇格》

第5条

1. 2S部から3S部への昇格者は、原則として2S部1位者(組)とする。
S部から2S部への昇格は、S部の各グループ1位者(組)とする。
1部からS部への昇格は、1部の各グループ1位者(組)とする。
2部から1部への昇格は、2部の各グループ1位者(組)とする。
3部以下からの昇格は、各グループ上位2人または2組とする。
2. プログラム完成後に棄権者がでて、リーグ戦参加者が4組以下のグループとなった場合は同クラス5組以上のグループから移動させて3組とならないように調整する。

《降格》

第6条

1. 1グループが5人又は5組以上の場合の降格数は、5位以下総てを降格とする。
2. Sリーグ参加が途絶えた後に再び参加する場合は、以前のクラスから1つ降格する。

《残留》

第7条

第5条および第6条に該当しないもの。

《リーグ戦の順位決定方法》

第8条

1. リーグ戦の順位は、まず、試合終了時点の得点数により決定する。
試合得点の出し方は、勝ち試合2点、負け試合1点、棄権0点とする。
2. 試合得点が同じ場合の取り扱いは、以下による。
 - 1) 同点の選手が2者の場合は、その2者の対戦成績の勝者が上位とする。
 - 2) 同点の選手が3者以上の場合は、次の順序で順位を決定する。
 - ① 同点の3者以上の対戦結果のみを抜き出し、試合得点の高い方を上位とする。
 - ② 同点の3者以上間の「勝ちゲーム／負けゲーム」の大きい方を上位とする。
 - ③ 同点の上位2者または下位2者が並んだ場合は、直接対決の勝者を上位とする。
 - 3) 上記総ての方法でも同じ場合は、年齢の高い方を上位とする。

標準の記入例: 3部-1 グループ進行責任者: 金子

	金子	税田	藤崎	星野	田中	勝敗	試合得点	勝ちゲーム — 負けゲーム	勝率	順位	次回の クラス
①金子		2-0	2-0	2-1	2-1	4/0	8			1	2部昇格
②税田	0-2		2-1	0-2	1-2	1/3	5	2/3	0.67	5	4部降格
③藤崎	0-2	1-2		2-0	0-2	1/3	5	3/2	1.50	3	3部残留
④星野	1-2	2-0	0-2		1-2	1/3	5	2/2	1.00	4	3部残留
⑤田中	1-2	2-1	2-0	2-1		3/1	7			2	2部昇格

《棄権が生じた時の取り扱い》

第9条

- 1) 初めから棄権がわかっている場合

大会に参加申込みをして棄権した場合は、記録なしで1つ降格。

2)ある試合だけ棄権した場合(選手の急病、アキレス腱切断、疲労など)

①勝者のゲームスコア欄に W(Winner)

ポイントスコア欄に W/O(Walk over)

試合得点は、2点与えられる。 ②敗者のゲームスコア欄に L(Loser) W/O
(Walk over)と記して試合得点は、0点とする。

③記録記入用紙に棄権の理由を明記する。

例えば、選手の急病、アキレス腱切断、疲労など。

3)記入例は、以下を参照して下さい。

棄権者の記入例

15コート 進行責任者:金子美江子

	金子	税田	藤崎	星野	田中	勝敗	試合得点	勝ちゲーム 負けゲーム	勝率	順位	次回の クラス
①金子		2-0	2-0	W W/O	2-1	4/0	8			1	昇格
②税田	0-2		2-1	0-2	1-2	1/3	5			3	残留
③藤崎	0-2	1-2		2-0	0-2	1/3	5			4	残留
④星野	L W/O	2-0	0-2		1-2	1/3	4			5	降格
⑤田中	1-2	2-1	2-0	2-1		3/1	7			2	昇格

棄権者の理由:星野選手がアキレス腱切断

《未消化試合の取扱い》

第10条

試合終了時間迄に行われなかつたマッチまたは終了しなかつたマッチがあつた場合は、試合得点を0点とし、順位は、まずその試合得点数によって決定する。

〈日本卓球ルール2.10.4.1 本文〉

リーグ戦方式の競技では、同一グループ内の全メンバーが、互いに他の全部のメンバーと試合をしなければならない。各々のマッチの勝者には、試合得点2が与えられ、敗者には、試合得点1が与えられる。また、行われなかつたマッチまたは終了しなかつたマッチの敗者の試合得点を0点とし、順位は、まずその試合得点数によって決定する。もしマッチ終了後に、競技者に何らかの違反があつたことが判明した場合、そのマッチは負けたものとみなし、不戦敗(試合得点0)として記録されることになる。

未消化試合の記入例

15コート 進行責任者:金子美江子

	金子	税田	藤崎	星野	田中	勝敗	試合得点	勝ちゲーム 負けゲーム	勝率	順位	次回の クラス
①金子		0	2-0	2-1	2-1	3/0	6			1	2部昇格
②税田	0		2-1	0-2	1-2	1/2	4			4	3部残留
③藤崎	0-2	1-2		2-0	0	1/2	4			5	4部降格
④星野	1-2	2-0	0-2		1-2	1/3	5			3	3部残留
⑤田中	1-2	2-1	0	2-1		2/1	5			2	2部昇格

試合の順序

試合順	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
試合	①-⑤	②-④	①-③	④-⑤	②-⑤	③-④	①-④	②-③	①-②	③-⑤
審判	(2)	(1)	(5)	(3)	(4)	(1)	(2)	(5)	(3)	(4)

未消化試合

《審判》

第11条

審判は、各グループごとに指定された順により相互に行う。

《選手変更》

第12条

締切後に選手変更がでた場合は、次のとおり取り扱う。

1. 主催者が同クラス者の変更と認めた場合は、申込みクラスと同じクラスに参加できる。
ただし大会前日までの届に限り上記扱いとする。大会当日の選手変更については、大会結果を次回に反映するが、入賞の対象外とする。
2. 変更届けの選手が申込みクラスよりも上位クラス者であった場合は、主催者判断でオーブン戦とし、入賞の対象外とする。

《表彰》

第13条

1. 各グループの上位2位者または組を表彰する。

ただし7組以上のグループは、上位3位まで表彰する。

2. 3Sクラスで連続3大会1位となった者(組)には、希望のユニフォームを1着贈呈する。

《試合の順序》

第14条

リーグ戦の試合順序は、プログラムに定める。

《コロナ禍における遵守事項》

第15条

1. マスクの着脱は個人の判断に委ねます。
2. 試合前後の挨拶は礼のみとし、握手等で身体を接触させないでください。
3. 卓球台又は床に汗が付着した際は、備えてある紙タオルで吹いてください。
4. 感染防止のため競技者は大声を出さないでください。
5. 試合コート入場時及び試合終了後は手指消毒をしてください。
6. 卓球台の上で手を拭かないでください。
7. 競技領域内にタオルBOXまたはタオル籠は準備いたしません。
競技者はタオルが床に直接触れないように袋または籠等を準備してください。
8. 感染防止のためタオルを卓球台のフレーム等に掛けないでください。
9. 滑り止め用雑巾の使用は認めますが、直接床に置くことができません。

《附則》

第16条

1. この運営ルールに定めのない事項については、競技委員長および審判長が日本卓球ルールを参考に判断する。これを最終判断とし、競技者あるいはコーチは、この最終判断に従わなければならない。
2. このルールは、平成17年7月2日から実施する。

〈本ルール改定の経過〉

平成17年7月2日制定

平成19年(2007年)4月1日一部改定

平成20年(2008年)4月1日一部改定

平成23年(2011年)11月19日一部改定

平成24年(2012年)6月1日一部改定

平成25年(2013年)4月1日一部改定

平成26年(2014年)4月1日一部改定

平成27年(2015年)8月9日一部改定

平成28年(2016年)11月20日一部改定

平成30年(2018年)4月1日一部改定

令和元年(2019年)6月15日一部改定

令和4年(2022年)5月3日一部改定(コロナ禍における遵守事項追加)

令和7年(2025年)11月1日 ラージボール卓球ルール改定に伴う改定